
神様の好奇心は人をも殺す

all

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

神様の好奇心は人をも殺す

【Nコード】

N8263Y

【作者名】

all

【あらすじ】

神様の好奇心によって殺されたも同然の高校2年生の神坂望。責任を感じた神は望を異世界に転生させた。

そう望が四六時中していた「妄想」を現実にできる世界に。

(タイトル募集中)

プロローグ ・ 異世界への転生 ・ (前書き)

始めまして、小説始めました。

このような執筆作業は初めてなので誤字や日本語としておかしい部分が多々あるかもしれませんが生暖かい目で流すように読んでいただければ幸いです。

プロローグ - 異世界への転生 -

彼、^{かみさかのぞみ}神坂望はいつものように歩道を歩き交差点で止まり、信号が青になったらまた歩き出し、学校へ向かう。

朝の7時半。朝日を体に浴びながらいつものように同じ道を歩きたいつものように学校につく　はずだった。

事は学校の裏にある信号のない小さな交差点で起こった。

「それ」はまるで十字路を渡る望が見えていないかのようなスピードでこちらに突っ込んできた。

横によけては間に合わないと「判断」した望は四六時中やってたいた妄想どおりに体を動かす。

ボンネットに手を付き、体を浮かせ、背中に背負っていたカバンをフロントガラスに打ち付けるようにしてダメージを殺す。

（妄想成功！）

ガツという音が響き、ボンネットの上に体を預け　「それ」がスピードを落とした。

「それ」いきなりブレーキが効いたかのようにスピードが落ちた。慣性の法則により打ち出され大通路にでてしまう。

次の瞬間、トラクションの音が鳴り響きその中に鈍い音が混じっていた…。

これが神坂望が異世界に転生することとなった世界で最後の出来事である。

この世界の神様はあまり人間に手を出すことはなかった。

というよりもともと興味があんまりなかった。

しかし世界に常識があつて非常識があるのなら、神世界しんせかいでも非常識と呼ばれる神はいるものである。

そしてその神の世界での非常識と呼ばれる神は望の妄想を知り、面白がり、試したのだ。

人間とはどこまで「準備してある物事」に対処できるのかと。

つまり、望がいつも通学路でやっている「どうやってからいよくかわすか交通事故の対処法」という現実味のある妄想を現実に引き起こしたのだ。

運転手から望の姿が見えなかったのは神のいたずらであり、それが結果一人の人間が逝った。

神は責任を感じた。神のいたずらは一人の人間の、いやその周りの人間も含めて全員の未来を狂わせたのだ。

家族友人はもちろんのこと、クラスメイトや担任の先生等は十分に周りの人間に該当するだろう。

望は転生者に、そして神は祈った。

そしてその神は世界に手出しすることを自ら禁じそれ以降世界をのぞこうともしなかった。

その神が上位神によって「天罰」を受けたのはどうでもよく、知らなくてもいい現実。神世界

重要なのはこれにより望という転生者が生まれ、異世界で生きていくことになったということ。

そして、望は異世界で二度目の人生を生きるということである。

神がその異世界での生活を見守っていたのも彼にとっては知らない、知らなくていい現実。

ブログ ・ 異世界への転生 ・ (後書き)

転生物を多く読み流されるように書き始めてしまいました。
投稿は不定期です。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8263y/>

神様の好奇心は人をも殺す

2011年11月24日19時52分発行